

6月は現代の国際社会における諸問題を議論する日仏シンポジウムや講演会が毎週のようにパリ日本文化会館で開催されました。

しかしながら、その模様をお伝えするには筆者自身が再度各発表の内容をよく咀嚼する必要があり、しばらく時間がかかりますので、その前に、ヌーヴェル=アキテーヌ地域圏ボルドー市のガロンヌ河畔に6月28日にオープンした新複合文化施設「MÉCA」について、7月2日にパリ日本文化会館で開催した東京藝術大学管楽アンサンブルのコンサートの模様を、ご報告したいと思います。

ヌーヴェル=アキテーヌ地域圏では特に日本との関係強化も狙っているようで、パリ日本文化会館との連携にも強い関心を寄せています。日本のアーティストの紹介や地元芸術家との共同制作など、当館の新中期ビジョンの重点方針の一つである「パートナーシップの強化」の一環として「MÉCA」との今後のつながりを模索していきたいと思っています。

また、同じく新中期ビジョンの重点方針の柱の一つである「若年層へのリーチ」という観点からも、東京藝術大学やパリ国立高等音楽院の学生など未来の音楽界を担う若者たちの発表の場としても当館を提供していきたいと思っています。

目次

- 1. ボルドーの新複合文化施設「MÉCA」オープン** 2~5
ボルドー市のガロンヌ河畔に「MÉCA」という新複合文化施設が開館しました。その開館式典がフランク・リステール文化大臣やアラン・ルッセ、ヌーヴェル=アキテーヌ地域圏知事等の出席のもと、6月28日(金)に開催されました。現代アートの展示・保管、公演の制作や上演、図書・オーディオ・ビジュアルの3つの機能を一堂に集めた巨大な複合文化会館の誕生であり、新たな観光スポットの誕生でもあります。
- 2. 東京藝術大学管楽アンサンブルによるコンサート** 6~7
7月2日(火)に東京藝術大学音楽部の先生方と学生たちで構成する管楽アンサンブルによる息の合った、それでいて時にユーモラスな演奏で聴衆を感動させました。演奏後もパリに住む同校の卒業生や留学生などとの交流があり、教授にとっても学生たちにとっても非常に感慨深い夕べとなりました。

① ボルドーの新複合文化施設「MÉCA」オープン

ボルドーを中心とするヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏の文化施設として6月28日(金)にMÉCAがオープンしました。筆者もその開館式典に招待されたので、同日午後から日帰り出張してきました。

MÉCAとはMaison de l'Économie Créative et de la Culture en Région Nouvelle-Aquitaine(ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏のクリエイティブ・エコノミーと文化の館)のことです。同地域圏の芸術文化の創造と振興、経済価値の向上をめざし、地域住民への還元を目的として建設されました。

2007年にジャック・ラング元文化大臣による地方分権化イニシアティブに基づいて構想され、長い手順を踏んで12年後の2019年に漸く完成しました。コンペは2011年に実施され、152件の応募中、4件が最終審査に残りました。その中には日本の建築設計グループSANAAも入っていました。

アラン・ルッセヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏知事によれば、デンマークの建築設計事務所ビヤルケ・インゲルス・グループ(通称BIG)の設計が採用されたのは、広義の文化の場所であることはもちろん、人々の交流の場、祭の場として最もふさわしかったからだそうです。2016年に工事が始まり、完成までに30ヵ月を要しました。

完成までの諸々の経費を含めた総費用は6千万ユーロ(約75億円)で、その内5千6百万ユーロはヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏が、4百万ユーロはフランス文化省が負担したということです。

ボルドー・サンジャン駅から徒歩で10分程度の距離にあり、ガロンヌ河畔の旧市街と新興地の交差点に立地していて、他都市からのアクセスも良いところです。周辺地域はいま急ピッチで再開発が進められています。



スロープからMÉCAへのアプローチ

MÉCA の総床面積は 18,000 平方メートル (パリ日本文化会館の 2 倍強) で、長い方の辺の長さが 120 メートル、高さが 37 メートルあるコンクリート造りの巨大な建物です。カタツムリの頭部と尾の部分のように前後にスロープが伸び、館へゆっくりとアプローチできるようになっています。道路からスロープにつながる階段からもアプローチできますが、普通の階段に比べると段差が椅子の高さほどあり、むしろ座るのに適しています。本体の施設は長方形のリング状で、中央は開放された 850 平方メートルのテラスになっています。風の通り道でもあり、散歩道にもいろいろなイベントを受け入れる空間にもなります。実際、オープニングの式典はそのスペースで行われました。

MÉCA は、パリ日本文化会館同様、展示、公・講演、図書・映画・オーディオ・ビジュアルという 3 分野の催しが同時にできるようになっている複合文化施設です。他に若い才能を育てる施設も有しています。

6 階建てで、中には 3 つの文化機関が入っています。アーチの高い方の橋脚の部分 1~3 階 (1,900 平方メートル) には図書・映画・オーディオ・ビジュアルを担う ALCA (Agence Livre, Cinéma et Audiovisuel) が、低い方の橋脚の 1 階から 3 階部分 (3,600 平方メートル) には舞台芸術等を担う OARA (Office Artistique Région Nouvelle Aquitaine) が、そして両脚に乗る形の 4 階から 6 階部分 (4,600 平方メートル) には現代アートを担う FRAC (Fonds régional d'Art Contemporain) が入っています。展示ホールは 1,200 平方メートルあり、保管庫も 900 平方メートルあります。展示会には年間 5 万人の来場者を見込んでいます。そのほかは共有スペースで、1 階にはカフェ・レストランもあります。



ガロンヌ河を望む MÉCA 中央のテラスに集まった招待客たち

ガロンヌ河に面した階段の上には公共施設に義務付けられた建築費の1%枠という制度を利用した芸術作品が設置されています。公募で選ばれた地元の芸術家ブノワ・メール氏は1978年生まれで、ボルドーの南部にあるワインの産地ペサックの出身です。設置されたブロンズ彫刻はギリシャ神話に登場する神々と人間の間の使者エルメスの顔をイメージしており、ガロンヌ河から向かって左半分は普通のふくらみを持つ立体、右は直線状に断ち切られて鏡のように磨かれています。正面から見るとその直線が建物本体の稜線とぴったり合わさるように設計されていて、顔の右半分が中央の空間に吸い込まれてしまった印象を与えます。彫像の高さは3メートル、重さは800kgとのこと。

式典ではアラン・ルッセ ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏知事、フランク・リステール文化大臣、デンマークの建築家のビヤルケ・インゲルス氏、ALCA、OARA、FRACの各代表らが挨拶に立ちました。建築家のインゲルス氏はカリフォルニアのグーグル本社ビルやマンハッタンのワールド・トレードセンター第2タワーの設計者として著名であり、2016年には世界で最も影響力のある人物100人に選ばれました。

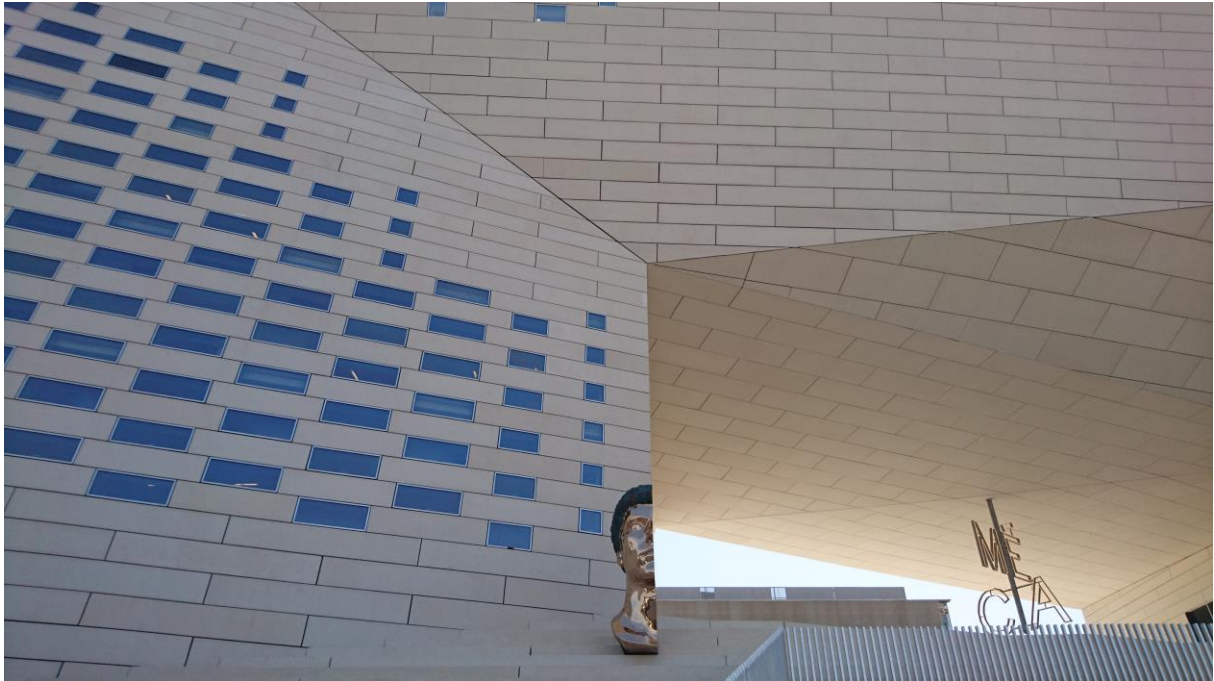
ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏では特に日本との関係強化も狙っているようで、パリ日本文化会館との連携にも強い関心を寄せています。日本のアーティストの紹介や地元芸術家との共同制作など、当館の新中期ビジョンの重点方針の一つである「パートナーシップの強化」の一環として「MÉCA」との今後のつながりを模索していきたいと思っています。



スピーチする建築家のインゲルス氏（左端は地域圏知事、右端は文科大臣）



エルメス像のアーティスト メール氏（左端横顔）



建物の稜線と一体化するエルメス像



エルメス像のガロンヌ河から向かって左半面



エルメス像の同じく向かって右半面

② 東京藝術大学管楽アンサンブルによるコンサート

7月2日(火)にパリ日本文化会館大ホールで東京藝術大学音楽部管学アンサンブルの8名の先生方と11名の学生たちによるコンサートが開催されました。

東京藝術大学では2014年に文部科学省のスーパーグローバル大学創生支援事業指定校に採択されて以来、国際的に活躍できる人材育成を加速するために、世界中から著名な音楽家を招聘するとともに、海外での演奏の機会を積極的に開拓しているとのことです。2016年にシカゴで世界最大の吹奏楽フェスティバルへ参加したことを契機に、今回の南フランスのラ・クロワ・ヴァルメールにおける「フェスティバル・デザンジュ・ダジュール」への招待参加につながり、その帰路にパリ日本文化会館で演奏していただきました。

曲目はクロード・ジェルヴェーズ作曲、ピーター・リーヴ編曲「フランス舞曲集」、ゼキニャ・ジ・アブレウ作曲、ジョン・アイヴソン編曲「ティコ・ティコ」、スコットランド民謡、ジョン・クズマ編曲「Hector the Hero」、モーツァルト作曲「ピアノと管楽のための五重奏曲」(変ホ長調 K.452)、シオルジュ・ビゼー作曲、長生淳編曲「アルルの女」、中村克己作曲「日本の叙情・・・五音音階の伝統」などでした(演奏者詳細は次ページ参照)。

先生方と学生たちの息の合った一糸乱れぬ演奏、しかし時に「アルルの女」のようにユーモラスな風味をきかせた演奏に、筆者を含めて聴衆は心から音楽を楽しみ、味わい、魅了されました。「日本の叙情・・・」には「赤とんぼ」や「夕焼け小焼け」などなじみの童謡曲がいくつも編曲されて組み込まれており、いったいいくつ含まれていたのか演奏後のクイズにもなりました。これまで当館で多くの演奏会を行いました、筆者はこれまでとは違う異質の感動を覚えました。その理由は恐らく、先生方と学生たちの信頼で結びついたつながりと日頃の精進の厳しさを感じ取ったからではないかと思います。



民族衣装を着てバグパイプで「Hector the Hero」を演奏する十亀正司先生(写真: MCJP)

同じく南フランスのフェスティバルに招待参加していたフロリダ大学の学生たちも当館でのコンサートを聴きに来ていましたが、彼らとの交流や、パリに滞在している東京藝術大学の卒業生や留学生たちとの交流など、演奏会後の心温まる触れ合いにも心を動かされました。

こうした未来の音楽界を担う若い演奏家の方たちに発表の場を提供していくことも、当館の使命のひとつと常々考えておりますので、同様の機会、できればパリ国立高等音楽院などフランスの音楽学校との共同コンサートなどの実現を模索していきたいと考えます。

そのことが当館の新中期ビジョンの重点方針の一つである「若年層へのリーチ」にもつながっていくと確信するからです。



中村克己作曲、山本正治指揮「日本の叙情・・五音音階の伝統」を演奏する藝大管楽アンサンブル (写真: MCJP)

演奏者:

ピアノ 迫 昭嘉* (教授、音楽学部 学部長)

フルート 高木綾子* (准教授)

クラリネット、指揮 山本正治* (名誉教授)

クラリネット、バグパイプ 十亀正司* (非常勤講師)

クラリネット (賛助出演) 宮子雅子

サクソフォーン 須川展也* (招聘教授)

トランペット 栃本浩規* (教授)

ホルン 日高 剛* (准教授)

トロンボーン 古賀慎治* (准教授)

オーボエ 志村樺奈

ファゴット 小田 光

ホルン 布施祐奈

トランペット 三村梨紗

トランペット 高松圭佑

トランペット 大山哲史

トロンボーン 伊藤大智

トロンボーン 大関一成

トロンボーン 笠間勇登

チューバ 長澤照平

以上